

6. 実現の手段 ③ 一拠点の形成

展開のスタディー、拠点形成のための道具だて

4章で設定した先導的拠点は、5章で構想したネットワーク化の際に構成要素の一つとして機能するだけでなく、それ自体が明確なメッセージを地域内外に対して発信します。

ここでは、そのような役割を担う拠点を形成するために、どのような知見が不可欠であるかを、赤平・三笠の重要拠点を例にスタディーし、他の拠点の形成に資するツールを提供します。

6-1 拠点形成の必要性

■Q質を追求する

前章(5-3)では、地域外の人々のV量を確保するために、ネットワーク化について構想しました。V量を確保するためには、前章(5-2)で述べたように、同時にQ質の向上が不可欠です。

特に、Q質の向上に貢献する対象層③④は、炭鉱遺産を筆頭とする《炭鉱の記憶》自体に興味を持っています。炭鉱遺産の新たな意味や、より深い知識の導入のために、これらの層の関心を惹きつける魅力的な「場」が必要です。

これまでは、○○立坑、△△ズリ山、□□博物館…というように施設単体や拠点個別にアピールし、理解の範囲は炭鉱遺産にとどまっていました。これでは構成要素相互の関連性は希薄となり、Q質を目指すための知識や人材の集積は望めません。

■パッケージ型の先導的拠点

4章で選定した14拠点では、各々において、Q質の向上を図り、V量の確保に貢献する拠点の形成に向けた努力が必要です。

特に、拠点形成の先導役として期待されるのは、炭鉱に係る様々なテーマが重層的に見てとれる見本市的な「場」としての可能性を有する次の4つの拠点です。

A2 赤平…住友赤平立坑～北炭赤間ズリ山の一带

A4 幌内…幌内炭鉱景観公園を中心とする一带

A5 唐松弥生幾春別…住友奔別立坑から西桂沢にかけて

A7 清水沢南部…清水沢周辺

これら拠点は、炭鉱遺産を目印・入口(=ランドマーク)としながら、その根本にある《炭鉱の記憶》全体を見せるという困難な任務を果たします。

これら拠点の形成が先行し、具体化のプロセスや知見が手本・教訓となり、他の拠点の形成が促進されることが期待されます。

以下では、市民活動が既に展開されており具体化の熟度が高い3つの拠点を例に、拠点形成のスタディーを行い、そこから得られた知見を、他の拠点を形成する際のヒントとしてまとめました。

6-2 拠点形成のスタディ（赤平）

■地形と歴史は現在のまちを形づくってきた二大要素

地形と歴史は景観の成立にかかわる二大要素であり、地形と歴史の両方の視点から、いかにして景観が成立したかを知ることは、まちの構造を見定めることにつながります。

赤平市の場合、市域を東西に貫流する空知川の南北両岸に広く河岸段丘地形が分布しており、そこを中心に、石炭産業の発展とともに山麓に向かって市街地が拡大しました。

石炭産業が衰退して以降、山麓部から市街地が縮退し、今日に至っているという歴史の変遷に目を配る必要があります。

■地形・土地利用の構造からみた赤平の景観上の骨格

赤平市の自然景観の基盤は、河岸段丘とそれを貫流する空知川にあります。空知川は、段丘面を下刻しながら蛇行していることから、市街地が相対的に高台に位置しています。

そのため、空知川の氾濫によって市街地が被害を受けたことがなく、開拓以前の流路がほぼそのままの形で今日まで引き継がれたという特徴があります。

川岸には豊かな河畔植生が連続し、空知川をまたぐ橋からは、ゆるやかに蛇行する河川、両岸に連なる河畔のみどり、その奥に市街地のまちなみ、市街地の北と南に屹立する山地が背景として連なり、西側へは石狩平野からピンネシリまでの遠望を一望できるという恵まれた特性を有する点に留意すべきです。

■市街地構造にみられる歴史の重層構造

市街地に目を転ずると、河岸段丘に相当する区域は、1901年に殖民区画にもとづき設定されました。1913年の鉄道開通を境に、石炭産業が本格的に興隆し、殖民区画に沿った街区の計画的配置をベースに、炭鉱施設や炭鉱住宅が整備されました。

しかも赤平には、住友赤平・北炭赤間・雄別茂尻・豊里の4大炭鉱が並立し、それぞれの「企業城下町」が形成され、炭鉱毎の企業風土が地域的まとまり感を持って形作られました。

このように、殖民区画にもとづき設定された区域に、炭鉱産業の隆盛とともに炭鉱住宅など炭鉱関連施設配置が上重ねられたまちなみが形作られたのです。

さらに、根室本線、国道38号線、赤平駅から虹かけ橋への街路といったまちの骨格をなす幹線が、まちの基盤構造を切り裂くように組み込まれました。まちなみの基本構造は、時代の変遷が重積され、それが地域固有の景観の基盤を形作っている点を踏まえる必要があります。

■赤平固有の歴史的・文化的オリジン

また、石炭を含む地層（夕張層・若鍋層・美唄層）は、南北方向に軸をもつ地向斜に沿って分布しています。褶曲する炭層が地表に現われた個所を空知川が浸食し、露頭として川岸に現れたことが、炭層の発見につながりました。

まさに炭鉱都市のオリジンともいえる場所が、今日に至るまでほぼ原形をとどめており、貴重な資源と言えます。

また、この川岸の近くは、1895年に国木田独歩が空知川沿いを訪ね、代表作である「空知川の岸辺」を構想した場所としても知られ、文化的価値をも有していることから、保存・活用を優先的に具体化する必要があります。

■炭鉱まちの面影に見る景観構成要素の表出性

炭鉱まちとしての面影としては、赤平の至る所から望むことができる住友赤平立坑・周辺施設、赤間のズリ山などの、シンボリックな景観構成要素があります。一方、その対極として、線路跡など一見しただけでは見逃してしまう景観構成要素も見られ、中間的な要素としての炭鉱住宅など、それぞれの要素の形態や意味は多様です。

そのため、これらの特性を踏まえた景観特性の表出を検討する必要があります。

コンセプト

赤平におけるエリアイメージ (仮)

空知川のほとり、暮らしの風景に炭鉱の記憶がもえる街

イメージの具体化、目的、効果

赤平らしさを実感させる景観づくり

目的：

- ・ランドマークとしてのズリ山とその周辺環境を活用し、赤平ならではの特徴的な体験型拠点を創出
- ・「バイパスの通り抜け」から脱して、積極的な立ち寄りのきっかけをつくる “Park&Walkingの拠点づくり”
- ・山あいの地形と空知川の流れと特徴的な景観軸（バイパス～虹かけ橋～駅）を活かしながら、点在する拠点を歩くためのネットワーク形成を強化する

効果：

- ・赤平の地域イメージ訴求力の強化
- ・市街地への誘導、引き込みのきっかけ
- ・地域の一体化、拠点間連携の気運形成

炭鉱の気配を伝える仕組みづくり

目的：

- ・炭鉱のオリジン（起源）と発展の過程を目に見える形で明確に伝える。
- ・炭鉱への関心以外の動機での来訪者に、炭鉱の気配を伝え、炭鉱への関心を喚起する。
- ・明確なテーマを持って祭り、イベントを通して、地域と炭鉱のつながりを強固に発信する
- ・他所にはない実体験可能な体験型施設を活用して、炭鉱技術の伝承とともに、炭鉱の果たして来た役割への理解を高め特有の魅力を発信する
- ・炭鉱の記憶と現代のつながりを伝える

効果：

- ・地域らしさ：赤平のアイデンティティの確立
- ・炭鉱のことを学ぶきっかけ、糸口をつくる
- ・赤平の炭鉱の記憶の伝承、先人の知恵の歴史の継承
- ・地域の次代を担う人材の育成

総合的方向性>
取り組み

<突破口としての取り組み>

○地域アイデンティティとしての景観づくり

- ・地形と歴史に深く刻まれた景観を作り出している資源の発掘と評価・保全・整備
- ・地域の共有財産として大切に扱っている姿勢を示すための見せ方の工夫（季節毎・時間毎の演出、視点場&視対象）
- ・日々の暮らしの中で意識を持って取り組み、新しい時代の炭鉱地域の景観をつくり出す。

○フットパスを活用した取組

- ・産炭地の景観の魅力を歩いて実感してもらおう。
- ・様々なテーマを持った拠点を用意する
- ・フットパスを歩く人の楽しめる要素を多くの人を巻き込んで創る。
- ・他所からの来訪者だけでなく、地元住民にも体験してもらい、地域を良く知ってもらおう。

○イベントの開催

- ・炭鉱都市としての歴史性を活かしたテーマで段階的に地域の歴史や炭鉱を意識づける。
- ・「地域にとって何が大切か」を常に意識して取り組み、しっかりと心に残る体験にする。
- ・地域の多様な人材が連携して取り組み、無理なく持続可能な活動としていく。

- ・様々なプロジェクトの実践を通して、それぞれに活躍する多様な人材のネットワークを構築
- ・火を活かした赤平のイメージ化と戦略による地域経済波及
- ・空知川を軸とした歩く拠点巡りに炭鉱の記憶を重ねて興行きのある魅力形成
- ・メイン拠点から個々の好みに応じたテーマのサテライト拠点へ誘導
- ・ズリ山をメインの立ち寄りの拠点とすることで過過交通を市街地に誘導

「ズリ山プラスワンの拠点ネットワーク」の創出

<プロジェクト>

プロジェクト①

- 「(仮)ズリ山景観公園プロジェクト」
- ・ズリ山周辺環境の景観公園化
 - ・軌道跡の風覚化

- ・フットパスコースの拠点として活用
- ・火祭りの中で明確な役割を持った場を活用
- ・地場産品直売市・リバーカッパ等イベント会場としての活用
- ・アーティスト参画インスタレーション会場

プロジェクト②

- 「(仮)空知川フットパスプロジェクト」
- ・炭鉱遺産や史跡巡り、川沿いの自然環境、地域の食やものづくり体験等を楽しめる多様な魅力のあるフットパスコース設定
 - ・多様な拠点をネットワーク化

- ・体験拠点の準備&ビュースポインットの保全
- ・商工業者、農業者等の本業との関係を明確にして参加意欲を高め、連携を強化
- ・炭鉱施設の拠点化・視覚化・アーカイブ化
- ・豊富な情報提供&適切なガイドの育成

プロジェクト③

- 「(仮)火を活かした地域戦略プロジェクト」
- ・火の意味を大切にしたい火祭りの強化企画
 - ・心の琴線に触れる演出、ストーリーの創出
 - ・地域の多様な層を巻き込んだ活動

- ・火の意味を明確に表現し、火まつりと地域のつながりを強化する新たな企画
- ・火、赤を連想させる商品開発
- ・空知川と連携した火の活用：花火の復活

